

第4回 広陵町文化芸術推進審議会 議事要旨

会議の名称	第4回 広陵町文化芸術推進審議会		
開催日時	令和6年3月20日（水・祝）10時00分から11時50分まで		
開催場所	広陵町役場 3階 大会議室		
出席委員の氏名及び人数	中川幾郎会長、杉本洋之副会長 岡田誠治委員、立花初代委員、池端範泰委員、林原延雄委員、 金秀一委員、松下真純委員 計8人		
欠席委員の氏名及び人数	寺本忍委員、富田英明委員 計2人		
出席職員等の職、氏名及び人数	教育振興部長 村井篤史 生涯学習文化財課：課長 尾崎充康、係長 平岡禎啓、主事 鶴山真委 参与 吉村昌代 スポーツ振興課（中央公民館）：課長（館長）坪水裕子 課長補佐 伊藤哲 計7人		
公開・非公開の別	公開	傍聴者	0人
議題			
<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 広陵町の文化芸術推進基本計画に基づく事業実施評価シートについて (2) 令和5年度各種事業の実施結果について <ol style="list-style-type: none"> ア 第62回広陵町文化祭開催結果 イ 大谷笙紅氏屏風作品寄贈について ウ 広陵中央公民館ロビーコンサート・ロビー展開催実績について エ 広陵中央公民館講座開講実績について オ 令和5年度広陵町生涯学習セミナー開催結果について (3) その他 4 まとめ 5 その他 			
会議の記録（要旨）			
発言者	発言要旨		
1 開会			
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・配付資料確認 		

2 会長あいさつ

会長	<p>皆さんおはようございます。 休日にもかかわらず、参加いただいた。 委員の皆さんからは、忌憚のない意見を出していただきたい。 ここで、何度も申し上げているが、再確認の意味も含めてお話ししたい。</p> <p>自治体における文化行政、特に文化芸術に関する事務は、自治事務であって、国に代わって行うものや、都道府県に代わって行う法定受託事務では全くない。 しかも、文化芸術基本法という法律は国の責任を定めた法律であって、地方自治体においては、努力義務規定しかない。したがって、やる、やらないについては、それぞれの自治体の自由となっている。</p> <p>よって、自主的・主体的事務とされている。いわゆる法定外自治事務に当たる。</p> <p>そのため、時の政治権力であるとか、議会の動向における、いわゆるポピュリズムの意見に流される可能性がある。</p> <p>そういったものに左右されない、安定的、持続的な開発投資をしていくための努力を担保するためには、どうしても条例が必要となってきた。法定外自治事務を担保するための文化基本条例が必要となってくる。</p> <p>全国の自治体でも、一般市や町村でも5%程度が制定している。政令都市においては、約50%、中核市においては約45%、都道府県は約60%が制定している。</p> <p>単なる教養、趣味、娯楽の類いではない芸術にアクセスすることは、人々の文化的な人権であることが条約にも書かれている。そういった視点に立っての施策の進展、実現、計画の推進等について諮っていくために審議会が設けられているということを確認いただいて、今回はそれぞれの作業の進捗具合を確認いただいて、皆様方の審議に付したいと考えているので、よろしくお願ひしたい。</p>
<h3>3 議題</h3>	
(1) 事業実施評価シートについて	
会長	<p>会議の終了は、12時00分までを目処にと伺っているの、そのように進行に努める。よろしくご協力のほどお願ひする。 早速、議題の1番、事業実施評価シートについて、事務局から説明願う。事務局！</p>
事務局	<p>「資料1 広陵町の文化芸術推進基本計画に基づく事業実施評価シート」に基づき、前回の会議で指摘のあった事項を反映した案について、事務局から説明があった。</p>
会長	<p>行政では、このようなカード、例えば、決算カード等を作っており、慣れている作業と考える。決算カードは地方自治体が作成しないといけないもので、その決算カードに準じている記載内容となっている。異なるのは、効果や意義などの明記を求めていることである。</p>

	<p>それをこのような事業カードとして、事業毎にばらして委員の皆さんによる点検や評価に付するという作業を行うこととなる。</p> <p>そのようなことを実施しないと、どれぐらいの事業を行っているのか、どれほどの労力をかけているのか分からないまま、雲の上からの意見を述べることはやりたくないの、具体的に事業を見せてもらってから意見を述べるための作業をしてもらうことになる。</p> <p>これに対して、意見や質問は。</p>
	<p>質疑及び意見なし。</p>
会長	<p>会議の中で思いつけば、質問や指摘をお願いし、次の議題に移りたい。</p>
<p>(2) 令和5年度各種事業の実施結果について</p>	
	<p>続きます、次第3番の(2)</p> <p>「令和5年度各種事業の実施結果」について、種々事業が行われておりますが、まずは、アからウまでを事務局から説明をしてもらいます。</p>
事務局	<p>「資料2 第62回広陵町文化祭開催結果」、「資料3 大谷笙紅氏屏風作品寄贈について」及び「資料4 広陵中央公民館ロビーコンサート・ロビー展開催実績」に基づき事務局説明</p>
会長	<p>ただ今、事務局から報告のあったアからウについて順次意見をお聞きしたい。</p>
委員	<p>文化祭にしても、育成クラブにしても、皆、年齢が高くなり、高齢者が非常に多い。</p> <p>時間的に余裕があったり、経済的にも余裕があったり、子育ても終わって、親の介護の必要もない人が多く参加しているという実感がある。</p> <p>現役世代が少ないというのは、ある意味致し方ないのではないかという思いもある。</p> <p>徐々に、設立者が長い間活動してきて、上手く後継者が育ってきているのかという心配もしている。</p> <p>徐々に会員が少なくなってきた、高齢者が抜けていくと、その分だけ人数が減っていってしまう。上手に後継者を育てて、若い人につなげていく体制ができているのかという思いを持っている。</p> <p>文化祭の報告にあるような出展者の年齢区分が出ているが、今回新たに来場者の年齢区分の調査も行ったと思うが、大体、どのような感じの来場者であったのか、報告できるか。</p>
事務局	<p>受付の際に、見た目だけの判断になるが、子ども若者、現役世代と高齢者に分けてカウントを取っていた。</p> <p>出展者とほぼシンクロした形になっていた。</p> <p>この文化展覧会は、美術館で開かれる展覧会のように特定の画家の作品を見に行くという性格のものではなく、身近な作品を作っている人の作品を見に行く仲間内の発表の場という性格が強いため、出展される方の仲間が鑑賞するので、出展者と同様に年配の方が多</p>

	<p>いという結果となっている。幾分、子育て世代などもあるが、すぐ隣の会場で行われた園児作品展を見に来て、文化展覧会を見に来られたと考えている。</p> <p>このことから、子どもの作品と一緒にあったら、見ていただけるものと考えており、そこに若者の作品が入ってくれば、若者世代も来ることになると思う。</p> <p>美術館における展覧会ではなく、文化展覧会は、身近な人の作品を見に来る場という性格であることを見極めた上で、作品構成の展開や来場するための仕掛け作りが重要であると考えている。</p>
委員	<p>出展数の資料を見たが、495点ということで、出展数が少ないように感じる。</p> <p>そこで、資料に書道部による書道パフォーマンスや、美術部によるアートパフォーマンスを採り入れたら良いのではないかと書かれているが、書道は好きであるが、なかかなかとつきにくい。書道パフォーマンスを行った横で紙や、色紙のようなものを置いて、来場者がパフォーマンスを見て、刺激を受けて絵を描いたり文字を書いたりして、自分の作品を作り上げる。アートにしても絵を描いたりするのを見ながら、来場者も作品を作ってみることが来年度の出展数に反映されるのではないと思う。</p> <p>パフォーマンスと、学校や家庭で描く絵や書道は異なると思う。</p> <p>パフォーマンスを見て感動し作品を作ってみると、意外と簡単という印象から、次の作品作りや出展につなげると良いと考え、検討課題に関する案は素晴らしいと感じた。</p>
会長	<p>ご意見として賜っておきます。何かあれば。</p>
事務局	<p>パフォーマンスを鑑賞して終わるのではなく、刺激を受けてその場でできるものは限られてくるが、自ら作品を作ってみる参加型のワークショップのようなものを採り入れたら面白いのではないかと考えている。</p> <p>さまざまな美術館や博物館の展示の中でも、参加者が少し描いてみたり、色を塗ってみたりして貼り付けて帰ったりする仕掛けが設けられている場合がある。</p> <p>実施にあったものとして、浮世絵の展示では、浮世絵がさまざまな色の版木を重ねて仕上げられているという技法を、それぞれの色のシャチハタスタンプを順に押ししていくことによって、浮世絵のできる課程を体験できる仕掛けを理解できる仕掛けがあった。</p> <p>実際に体験することで興味や面白さ体験できるものであった。</p> <p>文化展覧会でも、そういった工夫をちりばめたら面白いのではないかと考える。</p> <p>そのことによって関心を持ってもらい、新たな次の出展につながるようにできればと考えている。</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは委員どうぞ。</p>
委員	<p>資料2の出展者の年齢区分を見て、現役世代の方がほとんど出されていない。</p> <p>興味がないものが多いのではないかとと思われる。</p> <p>旧村では、高齢者と同居されている家庭も多くあるが、祖父母が</p>

	孫を連れて来て文化祭に来るということも見られなかったということか。
事務局	少ない状況であった。
委員	世代を超えて一緒に観覧できるような取組を今後、具体的にどのように考えているのかお伺いしたい。
事務局	子どもも一緒に楽しめるような仕掛けを作りながら、おじいちゃん、おばあちゃんの作品を見に行こうかと思う仕掛けも大切である と考える。 そこで、どのようなことをすれば、そういった人が来るのか、しっかりと研究してまいりたい。
会長	続いて委員から順にお願いしたい。
委員	資料2の広陵町文化祭開催結果について、文化協会の割合があるが、 絵画で61%、一人基本的に複数部門で4点まで出すことができる。 同じ部門で2点以内との制約の中での出展数となっている。 絵画では23人が出して36点であるので、一人2点までにはなっていない。 俳画は10人。作品は一人1.6点、書道も10人であるので一人1点というペースになっている。写真は、かなり貢献しているようで、20人程の会員で34点であるので、結構出している印象がある。 ロビーコンサートの資料では、50周年で文化協会が実施しているものは、 絵画クラブ、俳画というふうにあるが、限られたスペースの中での展示であるが、 50周年にかかわらず、時折、公民館ではこのような形で開催していただいたらどうかと思う。 大谷笙紅氏の作品は、5点出されていて、素晴らしく迫力のある作品を見させてもらった。
会長	続いて委員。
委員	資料2、委員の話と重複するが、出展者の年齢区分を見ると現役世代が少ない。 2ページの出展数の所で、出展者は年齢層が高い。出展者の友達が見に来るので、同じく年齢層が高くなっているということが、単純に数字を見ると見えてきた。 逆に言うと、公民館の講座や活動が、前にも発言したが、若者、現役の人に向けた講座や文化活動のメニューが少ないのではないかと考える。 そこを改革しない限りは、この流れを変えることができない。 公民館で活動している人が出展しているので、活動している人の年齢層がそもそも高いということであるが、若い来場者に来て欲しいということは難しいことである。 元を正さないと改善が難しいと考える。 また、同じ資料の4ページの検討課題。若者向けのデジタル作品は、とても良い提案である。今の若い人や40歳代、50歳代の人

	<p>はInstagramに出している。</p> <p>出展をするときは、長いスパン、時間での呼びかけが必要と考える。</p> <p>秋に展示会をするのであれば、それに向けて徐々に、段階的に空気を作り出すことが必要で、誰かが動いていることや、最優秀作品は派手に公民館等に展示をしてはどうか。</p> <p>委員からあった書道パフォーマンスもテレビで見たことがあり、女子高校生がパフォーマンスを行っていたが、かなり体力の要る迫力のあるパフォーマンスであった。</p> <p>高齢者にはついていけないので、そういったものこそ若い子、小学生の子どもを巻き込んで、参加型のパフォーマンスがあったら良いと思う。</p> <p>公民館の講座や企画等は、現役世代を入れないといけない。</p> <p>高齢者向けに発信しても、現状より出て来ないと考える。</p> <p>続いて資料4については、右側に人数の欄があって、それは演者の人数であるのか、来場者の人数であるのかどちらか。</p>
事務局	<p>来館された方の人数である。</p> <p>また、この資料には記載されていないが、3月17日のコンサートは、コーラスのティンカーベルが出演し、20人の方が来場されている。</p> <p>限られたスペースであるので、椅子が20～30脚程度しか置くことができないが、9月30日にあったマイルスイングフラスタジオのフラダンスの発表では、立ち見も含めて60人来場された状況もあるので、多くの方に来館いただける仕掛け作りや企画を継続的に行えればと考えている。</p>
委員	<p>あと一つは、この人数を見て成功したと捉えているのか、率直に主催者から見てどうなのか。その評価は。他の評価もいろいろあるが、企画をした側としての自己評価はどうか。</p>
事務局	<p>人数的には多い少ないがあるが、出演された方の声を聞くと、文化祭のように大きなステージとするのではなく、こういった場所で発表できるということで、喜んでおられたということもあり、来場者は出演者の知り合いが来られていたと思うが、小さな場所で見ることが良かったとの声があったので、公民館としても、喜んでもらえているということもある。</p>
委員	<p>感想としては良かったということもあったと思う。</p> <p>事業評価としてどうなのか。会場を広げたり、企画を良くしていく等の数字としての自己評価がないと、何とも言えないように思う。</p> <p>事業評価できるよう、分かりやすくしていただければと考える。</p>
会長	<p>では、委員。</p>
委員	<p>文化祭で気になって点についてお聞きしたい。</p> <p>文化祭ポスターデザイン募集は非常に良い取組と考える。ギガスクール構想のChromebookを使って作品作りをするということで、中学生2年生から募集されたが、今度、年代の幅を広げるということ</p>

	<p>は良いと思うが、細かなところになるが、応募者の内訳について、広陵中学校の作品は121作品、真美ヶ丘中学校の作品は4作品とあり、2校で出展作品に大きな差があるが、その理由は何か。</p>
事務局	<p>作品の募集に当たっては、夏休みの各種作品募集のうちの一つとして呼びかけを行った。</p> <p>既に夏休み時期に合わせて、多くのポスターをはじめとする作品の募集があり、文化祭のポスターデザイン以外に、応募が流れてしまったというように考えている。</p> <p>たまたま、今回は広陵中学校の作品が多かったが、早い段階からアナウンスを行い、令和5年度の作品を示しながら、周知活動を行っていかねばならないと考える。</p>
委員	<p>声のかけ方を平等にするなど、全体に広げるのならば、その点にも十分考慮し、作品数が同じ程度揃うように声掛けを行っていけば良いと考える。</p>
会長	<p>それでは副会長。</p>
副会長	<p>私の方では3点。</p> <p>ポスター作品応募の差、温度差は何であったのか気になったが、今の事務局からの説明で理解した。</p> <p>令和5年度は2年生、来年度は1、2年生としているが、3年生を外しているというのは、受験への配慮か。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
副会長	<p>作品応募は任意であって強制ではないのであれば、別に良いのではないか。</p> <p>3年生でも好きな子はいる。</p>
事務局	<p>最初、校長会で話をした時は、夏休みの宿題に入れ込めないかという話をした。</p> <p>既に課題が決まっている中で差し込めない状況もあり、自由応募で2年生を対象とした中で、両校の差が出てしまった。</p>
副会長	<p>それは良いので、好きな子が作品を出してみようと思わせる持って行き方。</p> <p>それであれば、中学生を対象として1年生から3年生まで全部の学年で募集をして良いと考える。</p> <p>美術の方に進学を希望している生徒もいるので、そういう子にとってもチャンスが出てくる。自分の力をこの場で発揮する中で選ばれると嬉しいものである。</p> <p>教え子で、美術の方に進学した生徒もいるので、美術の方面に行きたい子は喜んで参加すると思う。なので、受験があつて忙しいであろうからは3年生を除外するのは、余計なお節介かと思う。校長会の事もあると思うので、その辺は上手に。</p> <p>それから人数の件、年代によって来場する人数がかなり偏るという点。個人的な感想であるが、偏るのは仕方ないと思う。</p> <p>自分が今まで生きてきた中に当てはめると、若いときはこういっ</p>

	<p>た事に全然興味がなかった。そういった事をする時間がない。先程も話があったように、作品を作ったり、発表したりしようと思うと、時間が必要である。私も50歳で早期退職して、写真もかじり、陶芸もかじり、落語もかじりしてくると、楽しいし、やれば発表したくなる。</p> <p>それからすると、極めて正常な分布であると思う。</p> <p>先程もあったように、それが上手く循環していくことが大切である。</p> <p>そして最後に、委員からあったように、おじいちゃん、おばあちゃんが孫を連れて、また親が興味のある事に子どもを連れてということ。</p> <p>最近あったことであるが、父親が落語好きで、我々の発表に小学校2年生の子どもを連れて聴きにきてくれた。そこで凄く興味を持って、ぜひグループに入れて欲しいと子どもが希望するとのことであつた。こういった話も出てくることになる。</p> <p>気軽に「行ってみようか」と声を掛けることで広がってくるのではないかと思う。</p> <p>広陵町でやっていたら広陵町に来てもらい、そこで広陵町の魅力に気付いてもらうというふうにつながって行けば良いと考える。</p>
会長	<p>それでは、私も一委員として。</p> <p>委員の発言にあった、資料2の4ページ右下にある若者が出展してみようと思う部門の新設とあるが、これは是非とも検討していただきたい。</p> <p>決めるのは実行委員会か。</p>
事務局	<p>文化祭の舞台発表の方は実行委員会が運営しているが、文化展覧会については、事務局と文化協会が検討していくという形になっている。</p>
会長	<p>これは、いわゆる賞を出したりすることはないのか。</p>
事務局	<p>ない。</p>
会長	<p>賞を出したりしないのであれば、そんなに問題は出てこないと思う。</p> <p>デジタルであるとか、デザインやイラストなど、どんどん広げてはどうか。</p> <p>草津で美術展がだめになってしまった。そして滋賀県全体がだめになったというときに、審議会として提案したのは、デザインの部門を入れるということで、急に盛り返したところがある。草津であつたか、漫画も加え、漫画、劇画もOKという扱があつた。そうすることによって、若者がどんどん応募するようになった例がある。</p> <p>そういった所からアクセスしてもらうのも良いと考える。</p> <p>先程もあったアートパフォーマンス。書道などのパフォーマンスも一緒にやればどうか。舞台に関していうならば、フラダンスなどが出ているのだが、今は中学生、高校生はダンスに熱心である。彼らに舞台の上で発表しないかと呼びかけるとどんどんやってくる。堺市の登美丘高校のダンス部が全国一位になって、NHK紅白歌合戦にまで出演していた。そのこともあり、堺市ではダンスが大流行</p>

となっている。

ダンスもアートであるので、それも入れてはどうか。

それから、そもそもこの企画がどのように組み立てられているのかという点を鮮明に出した方が良い。今のことをストーリー立てて外部化すれば良いが、併せて委員からあったように評価はどうするのかということ、非常に大切なことであるが、事業カードにそれぞれ書いていただければ、評価は当然書かなければならないので、評価する訓練が自ずとできてくる。

ただ、文化祭全体でこの1枚のカードにしてしまうと、評価が非常に難しくなる。どれだけこのカードに細かくブレイクダウンするか、一度点検いただきたい。そうしないと、何十枚もカードが必要になってしまい、それも酷な話であると思う。

評価するというのは、何をもって評価するのか。来場者数で評価するのは非常にイージーで分かり易いのであるが、本当にそれで良いのかという意見がある。

出品者で評価するのと、来場者で評価するというのも大切な評価点であるが、それから後にどのような変化が現れてくるのかという点も考えたい。

また、評価のあり方について、勉強会をされてはどうかと思う。

それと、これだけのジャンルで良いのか、世代的な参加の点検については、もっと抜本的に行う必要がある。

また、地域的にばらつきがないのか。どこの地域が熱心なのか、作品が出てきていない地域があるのか。その点についても点検が必要と考える。

世代的な点検については、忙しい人は、なかなか来られないというのは当然である。

それは、時間的貧困として表現する場面もある。

経済的に豊かで、時間がたっぷりあって、家族にも恵まれて自分も健康という人だけが楽しむような文化祭では困るわけで、そういった点に目配りができているか、忙しい人でも参加できる仕組みはないのか。あるいは、病気をしている人でも何か関われないのか、お金のあるなしは、ある意味時間的貧困にもつながってくる。失業している人などにも目配りをしたい。障がい者に対する目配りは、ようやく出てきたと思う。

これについては障がい者の文化芸術活動基本計画について厚生労働省が各自治体に行っているが、現在は都道府県レベルで止まっている。いずれ、簡単なものでも良いので作ってはどうかと考える。

(休 憩)

会長

各種講座系に分類されるエトオについて事務局に説明してもらいます。

事務局

「資料5-1 広陵中央公民館講座開講状況」、「資料5-2 令和5年度広陵中央公民館主催教室事業実績(2月末)」及び「資料5-3 令和5年度実年学級開講状況」に基づき事務局説明。

会長

先程と同様に、各委員からご意見を賜りたい。
委員から順にどうぞ。

委員	<p>講座と教室の資料を見させていただいて、新規の方が少ないという印象である。</p> <p>ずっと講座を続けているようであるが、受講回数の上限があったように思う。</p> <p>私自身、社会教育委員であるが、講座には行っていない。</p> <p>同じような人がずっと来ていて行きにくいという面があったりするように思っており、少し反省している。</p> <p>これらの講座のテーマは、誰が企画して検討しているのかということになるが、しっかりとニーズを捉えられているのかという不安がある。</p> <p>私からは、このような講座があったら良いといった提言をしたいと、数日前に資料をもらってから考えていたが、なかなか思い付かないものである。</p> <p>例えば、今はスマートフォンの時代で、子ども達が孫の写真を送ってくれるが、最近プリントすることが少なくなっている。プリントしてアルバムにまとめて送ってあげれば喜ぶと思うが、スマートフォンでアルバムを作る技術がないので、そのような講座があったら良いと思った。</p> <p>また、プログラミングの講座があったら、孫と一緒に参加できたら良いと思うが、習い事等で孫の日程が合いにくいという状況もある。</p> <p>資料を見た感想として述べた。</p>
会長	委員どうぞ。
委員	<p>講座の教室について、講師は広陵町内だけでなく、広陵町外からというのもあると思うが、講師がこのような講座を開きたいという話があって講座を開くのか、それとも委託したりするのか。</p>
会長	<p>その点は、後で議論しましょう。</p> <p>その他のご意見は。</p>
委員	<p>子ども体験教室について、さまざまな仕事があるが、指導する人は現場の人なのか。</p> <p>また、生涯学習セミナーのことについて、コミュニケーション講座で、仕事に関わるコミュニケーション講座をなぜ火曜日に開講したのか。</p>
会長	続けてもらいます。委員。
委員	<p>公民館講座の2月末時点の状況を見ているが、子ども対象事業を行うと来場者が増えているように感じるが、こどもシゴト体験博の講座の数を増やして、もっと幅広い世代の方を取り込むという考えや予定はあるか。</p> <p>先程、会長からもあったように、他の市町村では、ダンスコンサートを結構頻繁に行われているが、資料を見ていると、コンサートは吹奏楽部しかない。ダンスコンサートなどを採り入れたらすると、おじいさんおばあさんと孫も取り込んでいけるように思う。</p>
会長	ただ今、三人から意見が出た。

	<p>最初の勤労者向けの事業がなぜ火曜日なのかという点についてコメントいただきたい。</p> <p>また次に、各種事業はどのように企画されているのか知りたい。企画を起こすトリガーは何なのか。前から続けていて好評なのでというのもありである。別に問題がないので続けているというのもあるであろう。</p> <p>また、子どものためや、成年のための事業をもっと増やすという余地や考えはないのかといった点について、コメントをいただきたい。</p>
事務局	<p>子どもの体験型教室は令和4年度に第1回目を実施したところ、好評であったため、一部の講座の内容を変更して開講したところであるので、この事業については、今後何回かは子ども向けで開講するという思いでいる。そこまで幅広く検討しているものではない。</p> <p>子どもの体験教室については、実際に現場で活動をされている人で、警察、消防、CAも実際に現場で活躍されている方である。</p>
会長	<p>二つ目のそもそもの企画はどのようにしているのか。</p>
事務局	<p>企画については公民館職員で、流行しているものや、前年度に好評であったものや、継続開講を求める声があったものを開講している。</p> <p>内容が幅広くなってくると、講座の指導者を確保することがネックとなってきている。</p> <p>今後は幅広く開講することについて検討することとなっている。</p>
事務局	<p>日常や仕事に生かせる内容の講座を企画したが、一番の理由として、開講時期において講師との日程調整の関係でどうしても平日になってしまった。結果論にはなるが、自営業をされている方などに受講いただいている現状はある。現役世代、特に30歳代、40歳代を対象とするものについては、休日での開催を行っていくものだと考える。</p> <p>新年度事業において、講師との協議の中で休日開催できるよう進めてまいりたい。</p>
会長	<p>それでは、引き続き意見を。</p>
委員	<p>若い人を対象にすることや、高齢化に対することは永遠のテーマとなっている。</p> <p>公民館主催の教室をもっと活性化すれば、教室から育成クラブに入る人が増える。教室が起点となっているので、公民館職員だけで企画するよりも、育成クラブを巻き込んで、今後、どんな教室を行うかを、みんなで考えていったらどうか。</p>
委員	<p>少し重複してしまうが、企画は職員だけではだめだと思う。流行りものだけでは、一時期のものになってしまう。方針がないから流行のものを採用して、やっている間に流行が終わってしまう。そういった仕事の仕方ではだめだと思う。厳しいことを言うようであるが、その結果、このリストのようになってしまっている。</p> <p>あと一つお伺いしたい。このリストはとても読みづらく、できれ</p>

	<p>ば数字ではなくグラフにさせていただきたい。資料としてももう少し分かりやすく工夫してほしい。</p> <p>続いて生涯学習セミナーと公民館講座の話があったが、所管が異なるのでこのようになってしまったのだが、住民にとっては所管がどこであろうが関係ない話である。所管を分けると内容が重複してしまうこともあり、工夫が必要と考える。</p> <p>講師の馬野さんは、私も防災士をしているので、よく知っている人である。先日の日曜日も、広陵北小学校区で子ども向けの防災教室をされていたので、調整の仕方によって休日に指導いただけると思う。馬野氏は、はしお元気村でも講座で指導されている。このように公民館だけではなく、はしお元気村でも講座や文化芸術活動が行われており、行政から見ると違うのかも知れないが、町民にとっては一緒であるので、少し工夫していただければと思う。</p>
委員	<p>生涯学習セミナーについて、内容としては現役世代の方が知りたい。参加したいと思う内容であるが、先程もあった日時の設定が気になった点と、オンラインで参加できるようにするなどの工夫があれば、もっと現役世代の受講につながったのではないかと考える。</p> <p>また、公民館講座の講師の年代は分からないが、20歳代から30歳代の若い年代の参加へと幅を広げたいと思うのであれば、講師も若い人に来ていただく教室が開講できればと考える。</p>
会長	<p>今出た意見等に対し、事務局からのコメントを。</p>
事務局	<p>公民館職員だけで講座の内容を決めていくことで、今までの流れでいつも同じような講座になってきている。ご意見にもあったように、さまざまな活動分野の育成クラブが活動しており、育成クラブと協議しながら教室の内容について新しい取組も、今後行っていきたいと考えているので、協力をお願いしたい。</p>
事務局	<p>若者や現役世代向けの講座は、開講日時の設定が重要と考える。土曜日や日曜日休みの方がメインボリュームになってくる。しかし、そうでない方もおられるので、一定の平日開催も残しつつ、メインを土日、祝日に持って行く必要があると考える。</p> <p>また、仕事帰りの人向けに夜間の講座も考えられるが、広陵町の地域特性を考えると、ベッドタウンの要素が大きく、大阪の会社から帰ってからの夜間の講座となると難しいと考える。仕事帰りに講座を受けたい方は、会社近くで開講されている講座を受けて帰って来られると思うので、平日の夜間に開講しても来られないのではないかと分析しているところである。</p> <p>また、講師によってはオンライン不可とされている方もおられるので、そういった点も調整しながら、オンラインが可能なのであれば、オンラインやオンデマンド型のものを期間を限定して行うこともあり得る。</p> <p>より多くの方が講座に接することができるようなきっかけ作りを行いたい。また、他の課でも健康に関する講座であったり、各種講座を開講しているので、そういった情報を一元化し、発信できれば、好きな講座を選びやすくなるのではないかと考える。</p>
副会長	<p>生涯学習セミナーの資料を見ていて、高校生対象のもので、お金</p>

	<p>に関する話が良かったかと思う。我々には何となくお金と政治の話はタブーといった雰囲気はまだまだあるように思う。そこで、次に考えていただければ良いと思うのが政治。特に18歳で選挙権があるので、高校生にも政治に参加するということについて、どのような話を持って行けば良いのか良いか分からないが、興味を持ってもらう必要があり大切なことであると思う。選挙にあまり行かない結果、今の日本の政治があるのではないかと思うところでもある。</p>
会長	<p>今のは、解釈であるが、社会教育法第23条に営利、政治、宗教活動をしてはならないという規定がある。それがために政治の話はタブー、金儲けの話はタブー、宗教の話は一切するなというゼロベースの悪平等の理論がはびこっていた時期があったが、それは大間違い。政治とは何かということや、日本の政治システムがどのようになっているのか、あるいは政党交付金の仕組みがどのようになっているか、きっちりと勉強する権利がある。また、宗教の学習をしないといけない。日本人は全然イスラム教のことを知らない。キリスト教よりもイスラム教の方が寛容。キリスト教原理主義もイスラム原理主義と同等なほど残酷であったりする。そういった事を学ばないで批判だけをするのはできない。また、営利学習をしなければならぬ。株式会社の作り方は、学ばないとできない。これらのことを開放しないと行けないということを指摘されている。タブー扱いしないことである。むしろ、積極的に進めるべしであるということですね。</p>
副会長	<p>そのとおりである。</p>
会長	<p>今まで出されてきた質問をを聴いてきて、良い答えもしていただいているとともに、ずいぶん苦勞して、これだけたくさん実施してよくやっている。こんなにたくさんではなく、3分の2ぐらいに仕事を減らしてはどうかと考える。この仕事、やり過ぎている。</p> <p>良いことと思って実施しているのかも知れないが、要求課題にばかり太刀打ちしてきた結果であると考え。育成クラブから意見を聴いても、要求課題しか出ないと思う。</p> <p>そうではなく、社会教育主事、あるいは社会教育士の力量をもって、あるいは公民館主事の力量をもって、社会調査をきっちりとしておかなければならぬ。</p> <p>そこから生まれてくる広陵町が持っている社会的な潜在的課題を解決するための学習講座を出していくべきであると考え。その課題についての講座を受けなければ、他の講座を複数受講できないなどの条件を付けるべきではないかと思う。そうでないと強い者勝ちになってしまう。</p> <p>もう一つお伺いしたいのは、彦根城と北国街道散策の旅は、参加料金はいくらか。</p>
事務局	<p>はっきりとした金額は記憶していないが、3,500円程度であった。</p> <p>町の公費でバス代を出している。それ以外の入場料、食事代は個人負担となっている。</p>
会長	<p>バスが7台であったら、100万円からの費用がかかっているの</p>

	では。
事務局	5台に減り、120万円程になった。
会長	<p>187人の参加で、これは本当に公平なのだろうか。</p> <p>ここに行って何を勉強するのか。彦根城であるので、名所・宮跡の探訪。はっきり言って観光ではないのか。しかも平日で。こういった平日に行けるといえば、限られた階層になってしまう。働いている人は行けない。学生は行けない。3,000円の負担も厳しい人も行けない。ちょっとこれは考えなければならない。暇と金と体力の余っている。家族の心配のない人しか行けない。そのバスのために百数十万円も出すという事に対して、広陵町の社会にとってどれだけのリターンがあるのか。そういった所から考え直さなければならないと資料を見ていて思った。こういった事は、町内会がやることである。これを改めないといけない。</p> <p>それで申し上げたいのは、社会的に必要な講座だけはしないといけない。</p> <p>地域社会にリーダーが生まれなくなって、高齢者だけになってしまって、後何年もしてくるとそういった人もいなくなって、地域がめっちゃくちゃになってしまう。防犯秩序も、防災秩序もなくなってしまふ。消防団も消えていってしまうことになる。それで、本当に行政がやっていけるのか、そういった危機感があるならば、地域を支えていく若手が育っていくような講座を展開していく必要があるのではないか。</p> <p>いつ災害が来るかも分からない。災害時に人権を守るためにどのような備えが必要なのかについて、学ばなければならない。</p> <p>この状況では、必要課題に対することを何もやっていない。要求課題ばかりやっている。趣味、教養、余暇、娯楽は否定しないし、要求課題に対応して自己実現の喜びを味わってもらうことは大切だが、その一方で必要課題を学ばなければならない。そうでないと、民間のカルチャーセンターと比べ、少し安上がりなだけのものになってしまう。それではだめである。個人的自己実現に留まっているものは、生涯学習とは言えない。</p> <p>教えた人が教わる側に、教わった人は教える側に回っていく循環関係を作ること。</p> <p>いつまで経っても同じ人が講師をしている。学んだ人が講師になっていくという循環関係を作れないのであれば止めるべき。生涯学習として考えるのなら、意味がない。</p> <p>ただ、もう一度お願いしたいのは、要求課題への対応だけではなく、必要課題対応にするためには、どのような社会調査をやっているのかということを確認したい。それは、初期の感でやっているというのであっても構わない。社会教育主事であるならばそれぐらいの能力はあると思うので、その感を裏付けるデータ、エビデンスを用意してもらいたい。例えば、不登校の子どもが増えてきているという場合、公民館はどのように接して、その子らを助けるべきなのかということを考えるべきである。私は、豊中市の図書館の委員長であったときに、図書館にその指示を出したことがある。不登校の子どもたちを助けるために、図書館が立ち上がれと言ったことがある。</p> <p>そのように戦うという、地域社会のためにアクティブに戦うとい</p>

	<p>うふうに組み立て直した方が良い。そのためには、必要課題をもっと掘り起こさなければならない。</p> <p>先程来から委員が仰っていることで、若い人が出てこないという社会課題が出ているのではないか。このことは、とても緊急課題で、しかも地域のリーダーが全員高齢化している。その地域リーダーを作っていくための講座がない。例えば、地域社会の面白さや、地域リーダーになろうとしている人の出会うための講座など、仲間作りのための講座をしている地域もある。子ども達に対しても、キッザニア甲子園があるが、兵庫県では子ども達に職業体験のためのコースを作っている。兵庫県の事業で、トライアルウィークといって、中学生に1週間程度の職業体験をするための取組を行っている。</p> <p>兵庫県の審議会の会議をしているときに、中学生が事務局の所に座っていて、訊いてみると、県庁勤務を体験したい中学生であるとのことであった。県職員と一緒に仕事をしているというとても貴重な体験であると思った。それぐらいのことを広陵町でやろうと思えばやれるのではないか。一度、思い切った事を考えてみてはどうかと思う。そうしないと、新しい世代は生まれてこない。まずは、小中学生ぐらいから社会というものに関わっていくことの面白さと、豊かさを学んでほしいと思う。</p> <p>もう一つのお願いは、住民自治の責任は何か。団体自治は、それに対してどのように支援し、そして、団体自治としてしかできない仕事は何かということの交通整理が必要である。何でもかんでも役所がしろ、何でもかんでも役所が用意しろ、光熱費までもよこせというのはだめである。民間でやられている習い事のお師匠さんなどは住民自治である。住民自治でも十分可能なものは住民に任せる。組織や施設設備、あるいは権限の要るものは団体自治でやらなければならない。特に公民館行政は、かなりの部分で住民自治で可能である。育成クラブの団体をお願いするという話があるが、そういった人達に講師をやってもらったかどうか。そういった関係性を組み立て直すべくお願いしたい。</p> <p>私の言っていることは、一足飛びに行きすぎているかも知れないが、今からでも遅くないので、組み立て直しをお願いしたい。</p> <p>飛躍しすぎであったであろうか、副会長。</p>
副会長	<p>リーダーを育てるというのは、学校現場でも大切なことになってくる。</p> <p>私は学校にいたので、学級経営の中でリーダーを作っていくって、その子達が社会に出たときに地元やいろんな所で活躍してくれたら良いという思いでした。</p> <p>学校現場もそうであるし、町としても育てていかなければならないと思う。</p>
会長	<p>学校で点検してもらいたいことが一つ。コミュニティスクール制度を行っているが、あそこで、きちっと議論してもらいたいもので、こちら側にも関係のあるものがあって、小中学校のクラブ活動の指導者を学校の教員は行う必要がないと文部科学省がついに宣言した。その人材を地域に求めるという通達を流している。教育委員会に入っているか。</p>
事務局	入っている。

<p>会長</p>	<p>そうであるならば、その仕組みをどう作るのか。どのようにジョイントするのかについて、学校当局と話し合いをしておかなければならない。スポーツクラブに関しては、太刀打ちできる人材がいる地域もあるが、文化系クラブについても同じである。美術部、ダンス部等いろいろとある。そういった事についても地域で指導できる人達をどのように持ってくるのかという作業を開始しなければならない。それについてどのように動きを取っているのかということである。大阪のある市では、首長部局の予算で、4千万円ぐらい計上して、全部民間団体に委託に出す。これは邪道であると思う。またパソナやコナミに頼むのだろうか。それは悪しき民営化である。地域にそういったリーダーがいるはずである。そのようにお尻に既に火が付いているのに、もう少し早くアクティブに動かないと、マーケットの漁り場にされてしまうということを言っている。そろそろ真剣に考えてもらいたい。反対に、押しかけ女房的に、行ってもらっても困るわけである。生駒で起こった事件のように、とんでもない事をする人が出てくる。人権に関する研修を受けるということ、青少年の発達心理学であるとか、児童の権利条約をきっちり学ぶことや、こども基本法を学ぶための研修を行ってから現場に出さないといけない。「篤志で行ってあげます」というのでは困る。そういった仕組みを作る時期が迫ってきているということを申し上げたい。</p> <p>そういったことは、生涯学習側の受けて立つべき仕事であって、学校からのアクションを待っているだけで良いのかと疑問に思う。何かコメントがあれば返して欲しい。</p>
<p>事務局</p>	<p>学んでいる人が教える仕組みという好循環の事例もあるので、そういったものを参考にしながら取り組みたい。教えてもらった側が教える側に回るという点があり、文化協会に子ども向け講座等で、スマートフォンで撮る映え写真や絵であっても、簡単なイラストなどで、子ども達がアートに触れる機会を作れたらと思っており、そこで文化協会のそれぞれのクラブの方にご協力いただけないかということについて打診しているところでもある。そういった講座の組み立てによって地域の方に先生になっていただき、つながりを広げていくといった仕掛けも検討したい。</p>
<p>会長</p>	<p>その際は、フィルタリングする必要がある。 手の挙げた人を無条件に派遣すると、大変なことになりかねない。 子どもに人権侵害をやったりすることも考えられる。</p>
<p>事務局</p>	<p>その面で、生涯学習文化財課では、人権教育推進協議会を所掌しており、人権セミナーにも参加いただく仕組みとして、人権感覚を養っていただき、人権のまちとして取り組みたいと考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>若者に対して、さまざまな講座が必要であるという意見をいただいているところであるが、どこで行っているのかということ、まずはリサーチしなければならないと思っている。公民館だけではなく、委員からあったように、ダンスはここでといったことがいろんな場所であると思う。ダンスならダンススタジオであったり、また</p>

違った場所で講座が開かれているという情報を行政として把握していない。その発表の場として大会があったり、例えばかぐや姫まつりでチアが発表したりする機会がある。育成クラブが、そういったことを把握しているのかということを確認しながら、講座としてダンス講座を持ち発表につなげていくというのは、段階が必要かと思うが、どんな所でどんな発表や活動をされているのかということをしらべ、その辺を活動につなげていくことが必要と考えている。

町も、全ての活動を知っている訳でもないので、そういったリサーチも必要なのかと。

高校生にお金の講座、政治の講座というのをやらなければならない。もしかしたら、高校が独自でやっているかも知れない。選挙権が18歳からとなったときに、ほとんどの高校で選挙について学んでいる。それに対して何が足りないのかということをしらべ、このような事ができるという提案ができる。

また、中学校の経済教育は、コロナのこともあり、職業体験が一旦止まってしまった。また子ども達が企業に出向き、社会で学んでいくということは非常に大切な機会であるが、それに対して、学校側が講座として公民館でもっとやりたい子達にできるようにするためにはリサーチする事によって、必要な講座を組み立てて、皆さんと考えていければと考えている。

また、クラブ活動の地域移行に関しては、会長の仰るとおりで、企業のための部活動の地域移行なのかということで、地域の方々に協力いただいて、それを持続的にやるための仕組みがこれから必要になってくると思う。

奈良県としては、令和8年度から休日の全部の部活動を地域に出していくとを言っている。それについては、地域の方だけでは担いきれないところがあるので、協力できる教員を使いながら、その教員にどのように報酬を支払えば良いか、また、こういった形で地域の方に協力いただけるのか。広陵町には総合型地域スポーツクラブというものがあるので、そこの方々に委託をして指導者を派遣してもらおうという事についても、来年度、会議を持って進めていこうとしているところである。生涯学習の面からも、文化協会の方に文化的な面からも皆さんのご意見をいただければと思う。

会長	それでは、その他の事項として、事務局からは。
事務局	今回は、特にない。 その他の事項は、今回はなしであるので、本日のまとめとして、会長と副会長からお願いしたい
会長	講評を求められているが、既に多く喋ったので構わないであろうと思う。 そうしておきましょうか。
副会長	それで構わない。
事務局から参会謝辞の後、散会。	